

第2期基本計画の内容		第2期基本計画に関する評価 (町民アンケートから見える主な満足点/課題点)		第3期基本計画骨子(案)検討にあたって 特に意識したい考え方
大綱	目標像			
大綱1 新たなにぎわいづくりに 向けた計画的なまちづくり (都市計画・生活基盤の整備)	● 土地利用の推進や都市基盤の整備、公共交通の充実などを通じ、自然の豊かさと 都市の利便性が調和した、多様な魅力を感じられるまちになります。 ● 今よりもさらに多くの人が、本町の生活環境に魅力を感じ、住みたいと思うまちになります。	フォローアップ調査 ・「自然と都市の調和」や「住みたいまちづくりの進展」については高評価。 ・「公共交通」や「商業サービス」への満足度については、改善は認めるもののまだ低い評価。 若者調査 ・「交通利便性」は継住意向における重要な要素。 ・学生は「公共交通が不便」、社会人は「アクセスが良い」という対照的な評価。⇒自家用車保有状況によって評価が分かれている可能性 転入者調査 ・「買い物環境」及び「自然環境」の満足度が高い。 ・「市街地開発」に対する高い期待。 ・「公共交通」については重要度・満足度共に低い。⇒自家用車での移動が中心の可能性	● 「自然環境」は、移住促進にもつながる益城町の特徴として、引き続き意識する。 ● 「市街地開発」を継続して進めるにあたって、豊かな自然環境を損なうことのないよう、「自然環境との調和」を重視する。 ● 幹線道路の整備や小売店舗の出店、公共交通ネットワークの改善などにより、「都市の利便性」が向上していることを踏まえ、これまで積み上げてきたストックの利用促進を図り、誰にとっても住みやすいまちづくりを進めることを改めて意識する。	
大綱2 町の魅力と活力を生み出す産業まちづくり (産業の振興)	● 農林業・商工業間の連携などを通じ、元気な産業があるまちになります。 ● 地域の企業が成長・発展していけるまちになります。 ● 町外の人や企業から「魅力的で稼げる場所」として選ばれるまちになります。 ● 若者や女性を中心に町内外の起業を目指す人が集まるまちになります。	フォローアップ調査 ・農業に関して、耕作放棄地の増加や担い手高齢化、事業承継に対する不安等の指摘あり。 ・商工業に関して、道路整備先行による期待と不安、TSMC進出地域との比較、交通課題への指摘あり。 若者調査 ・「進学・就職」は継住意向に影響を与える一つの要素。現時点では満足されていないとの認識。 ・「町の取組が見えにくい」との声もあり。 事業者等インタビュー ・農業の担い手への継続支援が必要、との声あり。 ・商工業では、復興投資後の経営悪化や物価高・最低賃金上昇による人手不足等の課題があるとの指摘。DX化による効率化や生活関連業種支援、中心市街地で稼ぐ創業支援等が重要との声あり。	● 産業の担い手の高齢化や人手不足、物価高等、地域産業が直面している課題を踏まえ、町内の農林事業者・商工業者（特に小規模事業者、個人事業主等）の事業継続・成長に対する支援強化をさらに意識する。 ● 道路整備やTSMC進出などによる地域の変化を生かし、就業や創業の場として選ばれる環境づくりを意識する。	
大綱3 すべての子どもを元 気・笑顔にするまちづ くり (子ども・子育て・教育のさらなる充実)	● 一人ひとりの子どもの個性や特長を理解し、家庭・学校・地域が一体となって、子どもたちを育てていくまちになります。 ● 子育てにかかる負担や不安を解消し、「子育てを思い切り楽しむ」ことができるまちになります。 ● すべての子どもたちが、楽しく元気に笑顔で毎日を過ごすことができるまちになります。	フォローアップ調査 ・「すべての子どもが元気・笑顔で過ごしている」という点について、全体的には高評価であるものの、10～20歳代及び40歳代での評価は相対的に低い。⇒子ども・子育て中の親世代からの厳しい評価 ・「通学路の安全」や「公園の充実」等のハード面については改善傾向にあるものの、まだ満足度は低い。 若者調査 ・15歳～25歳では本大綱を最も重要な点と認識。⇒継住意向に大きな影響を与える可能性 ・特に「医療費助成」については高い評価。 転入者調査 ・重要な大綱の一つとしての認識。 ・「幼稚園・こども園・保育園」については高い評価。一方で、「子どもが遊べる公園」「通学の安全性」「高校・大学への進学」については低評価	● 具体的な施策については、R7年3月に策定された「益城町こども計画」の内容も踏まえながら、近年特に取り上げられる課題についても追加していく。（こどもの権利、こどもの社会参画・意見反映、ヤングケアラー、困難を抱える若者への支援等）	

第2期基本計画の内容		第2期基本計画に関する評価 (町民アンケートから見える主な満足点/課題点)		第3期基本計画骨子(案)検討にあたって 特に意識したい考え方
大綱	目標像			
大綱4 みんなが“やりたいこと”で主役になれるまちづくり (住民主体のまちづくり)	●「地域コミュニティ」や「やりたいこと」などの“つながり”を起点に、住民みんなが主役になって活動できるまちになります。 ●住民みんなが、文化活動やスポーツ、学習、趣味などの取り組みに注力しながら、それぞれの活動を通じて、活気あふれるまちになります。 ●女性の「やりたいこと」を思い切ってやれるまちになります。 ●全員が、お互いの立場や価値観を尊重しながら、すべての人の当然の権利が守られるまちになります。	フォローアップ調査 ・最も重要度が低い大綱。(他調査でも同様) ・「地域の歴史・文化に触れる環境」についての評価は以前から大きく改善。 ・スポーツをする場所や機会、情報の不足への指摘あり。また、「イベントが減少した」という声も多い。 若者調査 ・「近所の人との挨拶がある」ことを町の特徴・好きなところとして挙げる声あり。 ・いわゆる「コミュニティ」としての広いつながりよりも、「近所での緩やかなつながり」を望む意見もあり。 転入者調査 ・「人間関係」や「地域の活気」について、転入にあたってはあまり気にしていなかったものの、転入後には高く評価する声が多い。 深掘調査 ・隣近所のつながりは強いが、集落や校区単位の組織とのつながりや参加頻度は低い。 ・災害時にも地域以外のつながりを重視する声も多い。	●現在の大綱は、「文化・スポーツ」、「人と人とのつながり」、「共生社会」の三つのテーマが一つにまとまっているために分かりにくくなっている可能性あり。それぞれ重要なテーマとして取り扱う必要あり。 ●「人と人とのつながり」については町のの大事な特徴。ただ、「つながり方」に対する感覚や考え方は多様化している可能性もあることを意識する。	
大綱5 みんなで健康づくりに取り組み、地域で支えるまちづくり (健康・医療・福祉の充実)	●人とのつながりを感じながら、みんなで、こころとからだの健康づくりに取り組めるまちになります。 ●みんなが「自分の健康は自分でつくる」という意識を持って健康づくりに取り組んでいるまちになります。 ●年齢や障がいの有無、経済状態、家庭背景などにかかわらず、誰もが地域で安心して暮らせるまちになります。 ●介護する人にとっても、こころとからだの負担や不安が軽減されるまちになります。	フォローアップ調査 ・「健(検)診や相談を受けられる環境」については高い評価。一方で、「健康づくりに関する情報発信」や「医療機関への交通手段」については、より改善を求める声が挙げられている。 ・「障がいのある人が安心して暮らせる環境」については、「どちらとも言えない」という回答が最も多く、当事者以外の関心の低さが伺える。一方、要介護者との同居世帯からは支援の充実を求める意見も見られる。 転入者調査 ・「医療・福祉施設の利用しやすさ」については転入前の重要度・転入後の満足度共に高い。	●それぞれが主体的に健康づくりに取り組むために必要な情報発信や環境整備(医療機関等に自ら移動できるための環境等)の重要性を意識。 ●同時に、誰もが安心して暮らせるように、互いが思いやりを持って支えあえる地域社会の実現に向けての意識も改めて強く持つことも重要。	
大綱6 みんなが安心して暮らせるまちづくり (安全・安心への取組)	●熊本地震の経験を活かした防災・減災の取り組みや、記憶の継承の取り組みの継続を通じて「日本の防災・減災をけん引するまち」になります。 ●地域住民の安全を地域のみんなで守れるまちになります。 ●災害時にも機能する公共インフラが確保されているまちになります。	フォローアップ調査 ・「災害に強いまちづくり」や「消防・救急体制の整備」に対しては高い評価。 ・「歩行者・自転車の安全通行環境」に対しては低い評価。街区内道路の狭さや歩道不足への指摘も多く、特に木山地区で低評価。 ・「地域防犯体制」に対しても低評価。警察施設の少なさや立地の偏在状況を指摘する声や、街灯・防犯カメラ設置を要望する声あり。 若者調査 ・震災からの復興に関して、「町として100%復興した」という回答は約2割。⇒復興事業が継続していることも背景にあるか 転入者調査 ・「防災・防犯上の安全性」に対しては高く評価。 ・一方、「道路交通の安全性」への評価は低い。	●「地域防犯体制の充実」や「道路交通の安全性向上」等、平時の日常生活における安全・安心の向上について、改めて意識する必要あり。 ●上記の意識を明確に整理するためにも、「安全・安心」について、「平時における安全・安心」と「災害時の安全・安心」とに分けて整理することも重要。	

第2期基本計画の内容		第2期基本計画に関する評価 (町民アンケートから見える主な満足点/課題点)		第3期基本計画骨子(案)検討にあたって 特に意識したい考え方
大綱	目標像			
大綱7 益城ならではの魅力を伝え、みんなに選ばれるまちづくり (町の魅力の磨き上げと発信)	- 豊かな自然がいつまでも保たれているまちになります。 - 住民みんなが、地域への愛着をいつまでも感じられるまちになります。 - 町外の人にも、本町ならではの魅力が知られているまちになります。 - 今よりもさらに多くの人が、本町の魅力に惹かれて来訪したり、関係したり、住んだりしたくなるまちになります。	フォローアップ調査 - 大綱に対する重要度は低い。(他調査でも同様) 「町内に住んでいる人が愛着を感じるまちになっているか」については、「そう思う」という回答が多い。 ⇒自由回答では、「身近な自然の豊かさ」や「人とのつながり・ぬくもり」、「都市と田園のちよどよさ」といった日常への愛着を挙げる声あり。 「益城町ならではの“魅力”があるまち」「『益城町ならではの魅力』の掘り起こし・磨き上げ・発信に取り組んでいる」に対しては低評価。 ⇒自由回答では、「突出した魅力がない」「何が魅力かわからない」という声あり。 「関係人口の増加」についても比較的高評価。(但し、ふるさと納税件数は目標を大きく下回る) 転入者調査 - 益城町に転入する際に重視したこととしては、「買い物環境」や「防災上の安全性」、「幼稚園・保育園・こども園の充実度」等。これらの点については移住後の満足度も高い。 - 転入時には重視していなかったものの移住後に満足度が高いものとしては、「自然環境の良さ」や「人間関係の良さ」、「地域の活気・にぎわい」等が挙げられる。 ⇒一方で、「自然環境については活用が不足している」という指摘もあり。	- 町民が感じている「日常への愛着」を本町の魅力として改めて認識し、「住みたくなるまち」「継続的に関わりたくなるまち」としての発信を意識する。 - 様々なきっかけで生まれてきた町外の方とのつながりに改めて目を向け、それを継続しつつさらに強いつながりにしていくことを意識する。	
大綱8 効果的で効率的な行政運営が行われるまちづくり (行財政基盤の確保)	- 住民が行政運営に関心を持ち、参画しやすいまちになります。 - D Xの積極的な推進を通じて、誰にとっても便利な行政サービスを実現するまちになります。 - 健全で持続可能な財政運営が図られるまちになります。 - 行政職員個人の資質向上や部署横断的な対応を通じて、多様化していく課題にも対応できるまちになります。	フォローアップ調査 「役場窓口の分かりやすさ・スムーズな手続き」及び「気持ちのよい役場窓口対応」に対する評価は非常に高い。また、「役場に行かずに手続きができる」という点も評価され、結果的に「行政サービスの便利さ」に対して高い評価となっている。 「住民や地域の声の施策への反映」や「町民向け情報発信の工夫」への評価は低く、結果的に「行政運営に参画しやすいまち」の評価も低くなっている。 深掘調査 - 約5割の人が「行政施策に対して意見を伝えたい」と感じながら、実際に伝えたのは約1割。その主な理由は「伝え方がわからない」ため。 - 行政参画においては、「町の情報の分かりやすさ・入手しやすさ」という点を最も重視。 ⇒最も利用されている手段は「広報ましき」で満足度も高い。一方、公式LINEについては認知・利用が約2割と低い状況に留まっている。	さらなる行政参画の促進に向けて、まずは「行政運営の状況を分かりやすく伝える」ことが重要。そのための手段の充実・多様化及び利用促進を図っていくことを意識する。	